

校名： 静岡大学教育学部附属幼稚園

所在地： 〒420-0885 静岡県静岡市大岩町1番10号 **電話番号：** 054-245-1191

記載日： 平成28年 5月10日 **記載者：** 野田 隆

記載者役職： 副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

静岡大学教育学部附属幼稚園は駿河国総社・静岡の総氏神様として知られる静岡浅間神社 の奥に続く賤機山（しずはたやま）の麓、緑多い城北公園の北隣にあり、自然に恵まれた環境の中に位置している。園内も豊かな自然が残されており、子どもたちは鬼ごっこや水遊び、虫取りなどを心ゆくまで楽しむことができる。また豊かな自然は季節の移り変わりを鮮やかに映し出すとともに、園庭に植えられたびわ、栗、クルミ、かき、キンカンなどの果実が豊かに育つように、子どもたちを感性豊かにすくすくと育ててくれている。

本園は、昭和 10 年に静岡女子師範学校内に同窓会創立の幼稚園として開園し、その後昭和 19 年に官立の第一師範学校附属幼稚園となり、昭和 26 年からは新制の静岡大学教育学部附属幼稚園と改称され、昭和 54 年に現在地に移転して今を迎える。現在のスタッフは園長以下、副園長 1 名、専任教諭 5 名、養護教諭 1 名、非常勤講師 4 名、事務補助 1 名、用務員 1 名と少数ではあるが、経験豊かで熱意のある教員が研修を重ねながらきめ細やかな保育を提供している。

本園は、静岡大学教育学部の附属幼稚園として研究と実習の場という特色を持ち合わせている。教育実習では、幼稚園教諭を目指す静岡大学の学生が、瑞々しい感性で子どもたちと関わりながら研修を重ねている。研究では、幼児教育教室をはじめ教育学部のさまざまな分野の教員と連携を図りながら、保育の理論及び実践に関する研究並びにその実証を行っている。本園は、地域における幼児教育の水先案内として、幼児教育の情報等の提供に努めることも使命としている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

本園は、本年度で創立 82 周年を迎え、多くの優秀な卒園児を世に送り出してきた。卒園児の多くは、同市内の附属静岡小学校に進学しており、その他、居住地学区の公立小学校、私立小学校へ進学している園児もいる。

卒園児の追跡調査はしていないが、同窓会組織があり、毎年 7 月には、同窓会主催の「夏祭り」が盛大に開催されている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本園での勤務経験者は、本務地に戻った後、各校園や各地域における研修のリーダーとして活躍している。また、教育委員会の指導主事や園長等の管理職としても活躍している。さらに、幼児教育の研究を深め、大学等で研究職について本園勤務経験者もいる。

過去の職員名簿については、大学と園において保管されており、毎年行われる「保育研究協議会」においても、多くの職員OBが参加、協力を行っている。

現在、公立小学校へ戻った本園勤務経験者は、小1プロブレム解消のための幼小連携、スタートカリキュラム等の実践者として活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

① 7附属との連携

3校の中学校、2校の小学校、そして特別支援学校と連携し、今日的教育課題に取り組んでいる。とりわけ、隣接する特別支援学校とは、発達障害児等の対応や教育相談について、また同市内の静岡小学校や中学校とは、3・6・3ヶ年間を見通した教育や小1プロブレム解消のための幼小連携について取り組んでいる。

② 保育研究協議会の開催

毎年11月、市内・県内はもとより、県外からの来園者を200名以上迎え、保育公開、全体会、分科会、講演会等の保育研究協議会を行い、地域への幼児教育の情報提供に努めている。

③ 園庭開放「おひさま」の実施

市内一広いと言われる園庭を、未就園児に年間5回開放している。本園の園児との触れ合いもあり、昨年は延べ200組以上の親子の参加があった。

④ 子育て講座

子ども子育て支援の一環とし、本園と静岡大学が連携し、市民を対象とした講座を無料で開講している。昨年は3回講座を開催し、延べ150人以上の参加があった。

⑤ 他園における園内保育研修会への参加

市内認定こども園の園内保育研修に、研究主任を参加させ、本園の保育についての情報提供と他園の保育についての情報収集を行い、地域の幼児教育向上に努めている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

静岡市においては、昨年度より、すべての公立幼稚園・保育園が認定こども園に移行し、国公立幼稚園は本園のみとなった。こども園では、日々の保育に追われ、以前のような幼児教育や保育の研修は難しくなってきたと聞いている。

本園は、市内唯一の国公立幼稚園として、今後も保育の理論及び実践に関する研究並びにその実証を行い、市内のみならず全県の公立・私立の園に幼児教育の情報等の提供に努める立場にある。今後は、さらに県や市の行政機関との連携を強化し、子ども子育て支援制度の充実に協力していきたいと考えている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

多くが静岡県の教員となる静岡大学教育学部の学生に幼児教育の実習を指導し、併せて教育学部と連携を図り幼児教育の研究にあたっている。近年は、附属園をもたない県立大学や附属園がある私立大学も、本園の保育活動に魅力を感じ、教員や学生が研究・観察に来園している。また、県内外の園長研修等の視察を受け入れるなど、本園の果たす幼児教育への研究活動、教員養成・研修における役割は大変大きいものである。

子ども・子育て支援制度の充実に際しても、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、静岡市こども未来局等の行政機関と連携し、市民へのサービス向上に努めてきている。

今後は、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に関して関係機関と連携し、子どもの育ちと学びをつなぐ研究に取り組んでいきたい。